

「千年王国とイスラエル」問題

—その鳥瞰図と聖書解釈のガイドライン—

JEC山崎チャペル牧師
関西聖書学院組織神学教師
—宮基督教研究所
安黒務

まえがき 『小羊の王国』

1. 『レフトビハインド』の根拠となっている聖書解釈、終末論は、妥当なものだろうか
2. 数多くの終末論—特別な神学的枠組みで
3. 聖書の語る終末論とは何か



4. 新しい天と地

2. 千年王国とイスラエル：序

1. 三つの解釈

1. 千年王国前再臨説
2. 無千年王国説
3. 千年王国後再臨説

2. 最も重要な二つの点

1. 第一の復活：霊的か肉体的か
2. 二つの終末的戦争の関係

3. イスラエル問題の整理

1. 旧約預言と千年王国
2. 千年王国とイスラエル
3. 黙示録全体と千年王国
4. 終末におけるイスラエル民族の位置づけ
5. 旧約のイスラエル回復預言の解釈
6. 大イスラエル主義の問題
7. 黙示録におけるイスラエルの意味

4. 新しい天と地：2.千年王国とイスラエル

①三つの解釈

1. 千年王国前再臨説
2. 無千年王国説
3. 千年王国後再臨説



4. 新しい天と地：2.千年王国とイスラエル

②千年王国と神の国

1. 無千年王国説と千年王国後再臨説：麦の成長と神の国の現在性の強調
2. 千年王国前再臨説：毒麦の成長と神の国の未来性の強調
3. 両者ともに、キリスト教終末論の重要な側面...双方を視野に入れ、健全な聖書的終末論の構築をはかる
4. 三つの解釈...択一的ではなく、相補的。
5. 千年王国の解釈の相違は、神の教会の一致を妨げるものではない

4. 新しい天と地：2.千年王国とイスラエル

③黙20:5-6の「第一の復活」の解釈

1. 無千年王国説：初臨→第一の復活（すでに起こっている霊的復活：新生）→再臨
2. 千年王国後再臨説：第一の復活（未来の霊的復活：新生）→再臨
3. 千年王国後再臨説：初臨→再臨→第一の復活（未来の肉体の復活）
 1. 「復活（アナスタシス）」の新約聖書の使用例42回中38回は「未来の肉体の復活」を意味
 2. 新約聖書の用例から、この語を「霊的復活（新生）」と理解するのは無理がある
 3. 千年王国前再臨説が支持される

ラエル

④二つの終末戦争Aー同一なのか？

1. 無千年王国説・千年王国後再臨説：来臨→ハルマゲドン＝ゴグ・マゴグ→新天新地
2. 千年王国前再臨説：来臨→ハルマゲドン→千年王国→ゴグ・マゴグ→新天新地
 1. 地上の国々の間の世界大戦ではなく、天にある軍勢と地の軍勢との戦い
 2. 戦いの武器ー神のことは、キリストの権威
 3. 悪の滅亡とキリストのその民の結婚の両面
 4. 来臨のキリストー悪の軍勢を滅ぼす神の軍勢の将であり、花嫁である教会を迎える花婿

4. 新しい天と地：2.千年王国とイスラエル

④二つの終末戦争Bー異なる戦争

1. ハルマゲドン（16章）

1. 戦争を引き起こすのは、竜・獣・偽預言者
2. 白い馬に乗った方、キリストにより勝利
3. まず、獣と偽預言者が滅ぼされる

2. ゴグ・マゴグ（20章）

1. 戦争を引き起こすのは、竜のみ
2. 天から降ってきた火によって
3. 悪魔が滅ぼされる
4. そのときに、火の池には獣と偽預言者はいる

3. 黙示録は、二つの戦争が時間的に連続する二つの異なる終末戦争として描いている

4. 新しい天と地：2.千年王国とイスラエル

④二つの終末戦争C：聖書解釈の原則の確認

1. 黙示録20章は、エゼキエル38-39章の終末戦争を背景としている。しかし、黙示録の記述は、エゼキエル書に比べてはるかに簡略。
2. この場合、旧約は新約によって、すなわちエゼキエル書は黙示録によって解釈されるのであって、その逆ではない。
3. それゆえ終末戦争をあまりに詳細に描くことには慎重でなければならない。

4. 新しい天と地：2.千年王国とイスラエル

⑤過渡的な期間A

1. 千年王国の記述は、聖書全体において、黙20:1-10のみである
2. これは歴史の完成ではなく、新天新地に至る過渡的な期間でしかない
 1. にもかかわらず、新天新地に比べて、「地上の王国」という性格をもつので、人々の関心を集め、空想に基づいた詳細な記述が試みられてきた
 2. 特に、古典的ディスペンセーション主義者は、この王国を強調し、旧約のイスラエルに与えられた預言の大部分は、千年王国において成就すると主張

ラエル

⑤過渡的な期間B：聖書解釈の原則の確認

1. しかし、旧約の預言の多くは、千年王国と新天新地の双方にかかわっており、それらを千年王国のみに限定することはできない
2. また、黙示録の記述は、きわめて簡明なので、この期間については不明なことが多くある
 1. たとえば、千年王国をイスラエル民族に関係した特別な期間とみなす説があるが、イスラエルの救いの問題を包括的に扱っているローマ9-11章において、千年期についての言及はないし、黙示録にも、千年王国とイスラエルとの結びつきも示されていない
 2. さらに、来臨後の「千年」王国の詳細に関しては議論がある。たとえば、千年期の回心についてはどうなのか。なぜ千年期において反抗がおこり、だれがサタンの軍勢にくみするのか。等々。
 3. しかし、黙示録は、これらの疑問についてはなにも語っていない。
 4. 私たちは、隠されていることについては、沈黙しなければならない。
 5. それゆえ、千年王国のあまりに細かな描写を試みることには意味がない。
 6. より重要なことは、黙示録全体の中で、20章の千年王国はどのように位置づけられているのか、である
3. (過渡的な) 三年半の苦難の時代 (11-13章) → 来臨 (19章) → (過渡的な) 千年王国 (20章) → (永遠の) 新天新地 (21章)

4. 新しい天と地：2.千年王国とイスラエル

⑥イスラエルの民族性

1. 「千年王国は、イスラエル民族への特別な期間である」という説の問題
2. 終末における「イスラエル民族」の位置づけには意見の相違
3. 二つの極端な立場
 1. イスラエルの普遍性のみ強調...置換神学
 2. イスラエルの民族性のみ強調...ディスペンセーション主義
 3. 歴史の終末的完成において、イスラエル民族になんらかの計画—ローマ11章で終末的完成としての「イスラエル」の救いへの言及